

音楽科研究部

1 研究主題 『ときめき つながる 響き合う音楽科学習』

音楽科研究会では、子ども達が、音や音楽を通じて人とのつながりや音楽を表現したり聴いたりする喜びを感じることで豊かな人間関係を築いたり、ともに音楽を楽しんだりする姿を目指している。そうすることで、生活や社会の中の音楽と豊かに関わり、心豊かな生活を営むことができると考える。そのためにも、「表現したい」「聴いてみたい」と思えるような活動や曲との出会いが重要になる。そこから、音楽に対して思いや願いをもち、音や音楽、仲間とつながり、音や心が響き合うことができる授業が大切になる。それぞれの言葉には、『ときめく』曲と出会い、表現したいという思いをもつことや「もっとこうしたい」「もっとやってみたい」という意味をもって主体的に取り組もうとする。『つながる』音・楽曲・友達・教師と共感し、友に考え、学び合おうとする。『響き合う』音が響き合い、心が響き合い、高め合い、表現する喜びを味わい、分かち合う。という意味が込められている。

2 研究主題について

① 研究部テーマ 「曲との出会いを大切に、思いや意図をもって楽しく表現する子どもの姿を目指して」

| 部 会 | 研 究 内 容 |
|-------|---|
| 歌 唱 | 楽曲のよさを感じ取り、互いに歌い聴き合う中で、自分の考えを広げ豊かな表現を目指す歌唱活動 |
| 器 楽 | 楽曲の特徴や楽曲に合った音、音色を見つけ、音や音によるコミュニケーションを通して自分の考えを広げ豊かな表現を目指す器楽活動 |
| 音楽づくり | 発想を得たり、思いや意図をもったりしながら、共に考え、作った音楽のよさを感じることが出来る活動 |
| 鑑 賞 | 音楽作品や演奏表現のよさ、美しさを自ら感じ取り、共に考え聴き味わう鑑賞活動 |

今年度は、感染症対策を十分に行った上での活動となった、制約が多い中、論点を絞ることで充実した研究につながった。

研究主題にせまるために、基礎研究、研修、実践提案、模擬授業、授業研究の流れで学びを深め、「児童一人一人の思い」を大切に考える方に基づき研究を進めることができた。一斉授業研究会では、事前に主題の教材を系統立てて分析し、必要な手だてを精選し、指導に役立てることができた。講師の先生方によるご助言により研究を深めることができた。

② 研修部テーマ「音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって、協働的に学ぶ子どもの姿を目指して」

| 部 会 | 研 修 内 容 |
|-------|--|
| 授業実践 | 低学年・高学年それぞれの授業実践を通して、子ども達が主体的に表現したり、鑑賞したりできる指導法の研修 |
| 管 楽 器 | 子どもが主体的に取り組み、表現する喜びや楽しさを味わうことできる管楽器指導の在り方 |

研修部は、授業実践部会、管楽器部会の2部会で活動している。授業実践部会では、主に経験の浅い部員が音楽学習の基礎的・基本的な考え方や指導法について、事前に講師の先生と打ち合わせで内容を絞り、実技を通してご指導いただき充実した研修となった。一斉授業研究会では、高学年による授業を録画し、後日、実践提案として役員が提案、部員による討議を行った。講師の先生方のご助言をいただき、授業改善の場となった。今後は、ズーム会議の活用を検討していきたい。

3 年間活動（事業）報告

(1) 専門部 上記の研究を推進した。

(2) 事業運営部

庶務部会、研修企画事業部会の2部会で構成され、それぞれが諸行事の計画・立案にあたった。しかし、今年度は、県や市のガイドラインによる各会場や感染症対策による制約が多く、研修等の開催に至ることが少なかった。来年度のいくつかの研修が、すでに決定している。

(3) 支部

音楽教育研究会の主題のもとに、支部ごとに実情に即してテーマを設定し、音楽教育に関する研修・研究や授業研究会を行った。区児童音楽会については、区ごとに開催方法を工夫し、ほとんどの区で実施することができた。支部長会は、各区の支部長によって構成されている。今年度は、部会は開催せず、メールでの情報交換となった。

(4) 特別委員会

横浜市児童音楽会とマーチングバンド交流会のマーチングバンド発表会は、それぞれ県立音楽堂と横浜武道館サブアリーナで予定されていたが、緊急事態宣言を受けて中止となった。

4 研究の成果と課題（第二次研究大会まとめ）

- (1) 分科会名 音楽科部会 第2分科会
- (2) 発表者名 横浜市立洋光台第一小学校 森野 淳先生
- (3) テーマ 思考力・判断力・表現力を高め、「できた・わかった」が実感できる楽しい授業を目指して

(4) 発表要旨

・全体的に落ち着いた雰囲気の子どもたちで、自然の中で、なかよく元気いっぱい遊ぶ姿が見られる。・音楽科の学習にも意欲があり、技能は高くないが、できるまで粘り強く取り組むことができる。鑑賞は、楽しんで聴き、興味・関心が高い。・音楽的な根拠をもって、自分の言葉で音楽のよさや面白さについて考え、伝えることを支援するため、ワークシートを手立てとした。「よく聴き よく考え よく話し」のとらえ 3つの柱を意識したワークシート **よく聴き**…じっくり聴く 今、何に注目して聴いているのか理解 集中してよく学ぶ→学びに向かう力 人間性等 **よく考え**…感じ取ったことと聴いて分かったこととを関連づける。関わりを理解→知識※本来は知識・技能（本研究は鑑賞領域に視点を当てているため）知識を得たり生かしたりしながら、自ら考え聴き味わう→思考力 判断力 表現力等 **よく話し**…お互いに交流し、共有、共感 もう一度自分の考えを振り返る→主体的・対話的で深い学び・ワークシート作成上の留意点、授業の流れが分かる。シンプルで見やすい。曲想を十分に感じ取り、その根拠を音楽の構造との関わりから考えられる。行数を多くすることで、たくさん考えて、たくさん書くことができるようにする。自分の考えや意見に自信をもつことができる。友達と話し合い、考えを深められる。・ワークシートによって、授業の流れがつかみやすく、発問も具体的でわかりやすくなるため、どの子も安心し、関心をもって学習に取り組むことができた。また、ワークシートに書いた内容をもとに、音楽的な根拠に気付いたり、理解したりすることができた。ワークシートに書いた自分の意見に自信をもち、積極的に伝え合う姿が多く見られた。1時間の中で何を学習するのか、子どもたちから何を引き出すのかを明確にし、発問や時間配分を考え、ワークシートに反映させることが必要である。子どもたちの交流が活発になってきたが、内容の深まりについて、これから考えていく必要がある。

5 協議内容

「越天楽」のワークシートの有効活用を視点に、協議を深めた。

・西洋のオーケストラと雅楽を、聴き比べて、それぞれの特徴を話し合う授業を行ったことがある。・大道小の子に合っていて、どの子も安心して学習できるワークシート。・学習のねらい、何を学ぶのか、授業の流れがワークシートを見ただけで分かる。・感受から知覚へ学習を展開すると、子どもの思考を生かすことができる。・ワークショップで実際に書いてみると、大人でも言葉が出ず、苦手な子には難しいかもしれないと感じた。曲のイメージを書くのが難しい。・記述欄が大きいのではないかと。→4年生から、なるべくたくさん具体的に書くように促している。・「どんな音楽の特徴から、生み出されるのか」という発問がよかった。「理由は～」 「なぜかという～」と子どもたちの言葉で表現していてよい。・学校の実態によって、ワークシートの中の言葉、一つ一つを吟味すべきだと思った。・ワークシートの形、（縦、横）どちらにするか考えることも大切。・授業の中で聴く時間、聴きながら書く、じっくり書く時間の配分を考えることが大切。・一生懸命聴いていても、思いを言葉にできなかった子が、友だちと話すことにより、言いたいことを表す言葉が見つかったときの喜びがある。・（ワークシートの取組を）続けることの大切さが分かった。・言葉で表現するだけではない、体感する感受（低学年）も鑑賞の大切な点。

6 指導講評 講師 教育委員会教職員育成課 指導主事 太田 理絵先生 つづきの丘小学校校長 館 雅之先生

・音楽専科、児童支援専任として、自校の子どもたちの実態を把握し、どんな力を付けたいのか、ぶれずに授業を組み立てている。・4, 5, 6年と段階を追って、学習が積み重なっている。・楽曲を聴き深めるためにじっくり聴く時間を大切に研究を深めてほしい。

・本アンケートによると、「音楽の構造を聴き取るのは難しい」と感じているが、「音楽は好き」なのは何故か、さらに考える意味がある。

・「子どもたちに任せて、待つ」教師側の姿勢により、何かが始まる。例えば、前に立つのではなく、子どもたちの活動を後ろから見る。

・シンプルで音楽の構造もとらえやすい。また自分たちの表現にも生かせるという点で、歌曲の鑑賞はよい。例えば、もともとの詩にはない作曲者の工夫、めだかの学校 茶木滋氏の詩では、「そっと のぞいてみてごらん」は一回だが、作曲家（中田喜直氏）は繰り返して歌うように作曲している点について、子どもたちに投げかけて授業を展開している事例もある。

・現在、様々な新しいことが入ってきているが、私たちが、一つの見方だけをしていると、本質としているところを見失いがちである。